



平成 26 年 5 月 14 日

各 位

会社名 昭和鉄工株式会社
代表者名 代表取締役社長 山本 駿一
(コード番号 5953 福証)
問合せ先 執行役員 経理部長 一木 和弘
(TEL. 092-651-2933)

個別業績の前期実績値との差異および特別損失の計上に関するお知らせ

平成 26 年 3 月期(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、特別損失の発生につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

平成 26 年 3 月期通期個別業績と前期実績値との差異(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 8,338	百万円 △45	百万円 △47	百万円 56	円 銭 6 70
当期実績値 (B)	9,341	△129	△144	△27	△3 25
増減額 (B - A)	1,003	△83	△97	△83	—
増減率 (%)	12.0	—	—	—	—
(B - A) / 前期純資産額 (%)	33.4	△2.8	△3.2	△2.8	—

差異の理由

売上高につきましては、サーモデバイス製品が海外設備投資の需要が堅調で前期比 668 百万円増、景観製品は大型物件が好調で前期比 546 百万円増等により、大幅に増加しました。しかしながら利益面につきましては、人件費の増加、貸倒損の発生等により、営業利益、経常利益は赤字幅が拡大し、当期純利益も赤字となりました。

特別損失の発生について

当社は機器装置事業(サーモデバイス BU)において、新タイプの液晶表示装置製造用の熱処理炉を受注しております。受注以降その納入に向けて、製造委託会社(KOREA PIONICS Co.,Ltd.)と協力し、顧客の仕様に沿うべく製造を続けてまいりましたが、技術的な課題解決に時間を要した結果、一部の製品が当社において販売不可能になる製品が発生するとともに、顧客の生産計画に多大な影響を与えております。顧客への損害賠償等について関係当事者と協議をしておりますが、販売不可能な製品に係るたな卸資産廃棄損、既に発生した対策費用及び契約書等に基づき必要と見込まれる損失額を合わせて「サーモデバイス事業関連損失」として特別損失に 373 百万円計上しております。

以 上